

銚子七中
学校だより**坂東太郎**令和3年3月22日
最終号（第36号）

校長閑話

COUNT DOWN 閉校まであと **10日**

惜別のご挨拶 あいごとう 七中

いよいよ閉校まで10日を迎えました。3年前に校長として着任した時のことを思い出すと万感胸に迫る思いです。私は1991年(平成3年)4月に教諭として七中に初めて着任しました。まだ教員として7年目の駆出しのころです。当時の私は教員としての経験年数が浅いため、生徒に助けられながらもどうにか日々を過ごすことができました。その勤務年数(4年)と今回の勤務年数を合算すると通算で7年になります。これはこれまでに勤務した8つの学校の中では最長でした。どんな学校でも校長としての重責は計り知れないものがありますが、地元の学校であること、勤務経験のあった学校であること、保護者には教え子がいたこと等を考えると、37年間勤務した教員としての最終章、そして退職を七中で迎えられることは大変幸せなことでした。そして何よりも閉校という大きなイベントに立ち会えたことは、七中への縁を深く感じ、そして私を育ててくれた七中への恩返しのお機会を得たこととして幸運に思いました。

さて本校は、昭和22年に豊里小学校敷地内に併置創立され、その後昭和30年に銚子市との合併を機会にその名称を銚子市立豊里中学校としました。さらに昭和34年には銚子市立第七中学校と改称し、74年の長い歴史において豊かな里が純朴で素直で明るい生徒を育み、4413名の素晴らしい卒業生を輩出していくこととなりました。そして、その歴史の中において平成5年度にはPTA活動が高く評価され文部大臣賞を受賞、平成20年度には男子バスケットボール部が関東大会出場、そして今年度においては健康教育を強力に推進したということから県下で数少ない優良校として県教委より表彰をされました。それぞれにおいて保護者、生徒、学校職員の名誉が深く歴史に刻まれた功績レガシーでもあります。

しかしながら本校のみならず、全国的な児童・生徒の急激な減少という状況の中、今年度末をもって閉校を迎えてしまうことに、今日までの歴史の重さと、卒業生の皆様の母校に向ける心情を察すれば、残念さと無念さ、また悲しい思いを抱かざるを得ないところです。

平成28年年12月26日に閉校が決まって以来、私たちは寂しい思いに負けることなく、卒業生の皆様が刻まれた素晴らしい歴史に恥じない学校づくりをして有終の美を飾ろうと決意しました。特にこの1年間は、最後にふさわしい年にするため、生徒と教師そして地域の方が一丸となって諸事に取り組もうと思いましたが、コロナ感染症の予防対策のため、全ての行事が中止となってしまいました。残念でなりません。

1年生には、本校での思い出作りが十分に出来ないまま銚子西中に送ること、2年生には職場体験学習や部活動で活躍できなかったこと、そして3年生には修学旅行や体育祭、文化祭で活躍してもらえる機会が奪われてしまったことをとても悔やんでなりません。

しかし、銚子七中は間もなくその歴史を閉じますが、生徒の皆さん一人一人の歴史はまだ始まったばかりです。どうぞこれから、先輩方が築き上げていった伝統を守り、そして本校の一員であったことを名誉と誇りに思い、新たな舞台でこの1年を取り戻してにってください。これからは皆さんがそれぞれで七中の歴史の続きを築き上げていくことになります。皆さんの活躍を期待しています。

終わりに、74年間の長きにわたり、本校を支え七中生を慈しみ育てて頂きました地域の皆様、保護者の皆様、御指導御支援を頂きました銚子市教育委員会、歴代校長をはじめ旧職員の皆様方の御努力に敬意と感謝の意を表しますとともに、本校に関係した全ての皆様方の今後の御多幸をお祈りいたしまして、惜別のご挨拶といたします。



* 学校だより「坂東太郎」は本号をもって最終号とします。長らくのお付き合い有難うございました。

3月を振り返って



12日(金) 3年生修了式

閉校まで20日となりました。今日は3年生の修了式です。修了証書の授与でこの1年間の学業修了となります。放課後、3年生の代表が私宛に3年生全員からのメッセージ集を届けてくれました。早速読むとその内容に、胸が熱くなりました。生徒との接点は少ないものの、集会での話の内容、さり気ない廊下での会話、清掃時の会話等そのメッセージに私との思い出が多く綴られていました。中にはこのホームページの内容について触れているメッセージもありました。いよいよ明日は卒業式です。そうです、銚子七中最後の卒業式です。第74回！荘厳に、煌びやかに、そして思いで深い卒業式にしていきます。

13日(土) 第74回卒業証書授与式

閉校まで19日となりました。今日は本校最後の卒業式です。27名の生徒が次の舞台へと羽ばたきます。生憎の天候ではありましたが、粛々とそして荘厳に式は進み、無事終了することができました。今年も昨年同様新型コロナウイルス感染防止のため、簡略した卒業式ではありましたが、3年生の教室は、学級担任の思いが沢山の装飾に表れていました。卒業おめでとう！七中の卒業生であったことを誇りに、これからの人生大きく邁進してください。きっと素晴らしい未来が待っています。ガンバレ七中OB！

20日(土) 閉校式開催

閉校まであと12日となりました。今日は閉校節目の日、閉校式が開催されました。おおよそ90名近くの方々の参加の下、約1時間の式典は無事終了しました。久しぶりに登校した3年生(卒業生)は、すっかり高校生の佇まい。凛々しさも感じました。式典後にはサプライズ企画として、千葉県出身の有名人ピコ太郎さんのメッセージ動画を放映しました。生徒からは歓声上がり、閉校を迎えるにあたって良い思い出となったようです。校舎正面玄関のラウンジにある飾りつけは、良い記念撮影のフォトスポットになりました。

インドはい〜んど！？ ⑱



日本人学校での任期(3年間)も間もなく終えて、日本への帰国が迫る3月下旬、引越しの準備が慌ただしくなります。帰国後直ちに使わなければならないものは航空便で、そうでないものは船便で運送業者に依頼をし、自家用車を含めた家財道具の多くは買い取り業者に引き取ってもらいます。中でも日本の電気製品は品質が良いことから、納得の値段で買い取ってくれるからです。また、不燃ゴミ等は住居の門外にまとめて出しておきます。ある日何度も繰り返しごみの搬出をしていた時です。不思議なことに門外に出しておいたはずの不燃ゴミが減っていることに気付きました。ゴミの中には使えるものがあると判断したのでしょうか、選別して近所の住人が持って行ったようです。

そのことをきっかけに帰国後は不燃ごみの廃棄について再利用をすることはできないものかと考える習慣ができました。昨今、SDGsでは5R(Reduce, Reuse, Recycle, Repair, Return)に注目をしています。インドでは25年以上前にはすでに生活習慣の中に自然とエコな生活が取り込まれていたようです。なお、インドの屋台ではバナナの皮をプレスした皿を食器の代わりとし、使用後は土に返す環境に優しい取組もしています。素晴らしいと思いました。

開校記念品の紹介

閉校に向けて七中オリジナルの記念品（クリアフォルダ、定規、サーモボトル、歴史を紹介したDVD）を作成しました。



学校正面玄関（ラウンジ）には、卒業生であり地域在住の方に絢爛豪華なフラワーアレンジメントを寄贈していただきました。

